令和８年度 第１回中央区協議会
（代表会）
会議資料②

【その他】

（１）遠州灘海浜公園篠原地区道の駅整備事業について【企画課】　Ｐ．１

令和８年５月１４日開催

中央区協議会
（代表会）

令和８年５月 11 日

総務委員会

企画調整部企画課

遠州灘海浜公園篠原地区道の駅整備事業について

1　背景

・全国の道の駅は、道路休憩施設として安全で快適な交通環境の創出に資するものであると同時に、情報発信、地域連携の基本機能を有し、地方創生・観光の拠点としての役割を担っている。また、一部の駅では災害時の防災拠点としての役割も果たしている。

・本市が検討している道の駅は、道路休憩施設としての必要性に加え、遠州灘海浜公園篠原地区と相乗効果を発揮できるポテンシャルを有している。

・令和５年度に遠州灘海浜公園（篠原地区）道の駅及び周辺地域活性化構想を策定し、基本的な考え方や導入機能等について検討してきた。

・令和６年度から官民連携手法導入可能性調査を実施し、サウンディング型市場調査や事業手法の検討を踏まえ、令和７年度末に基本計画を策定した。

・民間事業者からは道の駅単独でも事業の成立が見込めるとの声を受け、公園整備に先行して検討を進めている。

2　基本計画の位置づけ

・基本計画は、令和５年度に策定した構想をもとに、道の駅のコンセプトや整備候補地、施設規模、施設イメージをより具体化させるとともに、実現に向けた事業手法やスケジュールを整理するものである。

・基本計画をもとに、道路管理者等と施設内容やレイアウト、交通アクセスなどの詳細について協議・調整を行い、事業者選定の仕様（要求水準書）作成及び「道の駅」事業計画策定につなげる。

3　道の駅の検討

(1) 道の駅の必要性

①安全で快適な道路交通環境の提供

・道の駅空白地帯の解消

…国道１号沿線には、道の駅潮見坂から道の駅掛川までの約 60km の間に道の駅が存在せず、篠原地区への道の駅の整備により、安全・安心な休憩施設が充足する。（図-1）

・全ての人にとって快適な休憩施設の提供

…身体障害者専用駐車場や多目的トイレ、ベビーケアルームなどの整備により、多様な人々が利用しやすい休憩施設を提供する。

＜図-1　国道１号沿線の近隣の道の駅＞



②地域振興への寄与

・交流人口の拡大

…人口減少局面から脱却し、持続可能な地域を実現するためには、「交流人口」、「関係人口」、「定住人口」の３つの人口の拡大が必要であり、地域資源を生かした道の駅を整備し、３つの人口の入口となる「交流人口」の拡大を促進する。

・地域の魅力の発信

…市内各地の観光資源をストーリー化して発信するとともに、地域ならではの体験コンテンツを提供することにより、ブランド価値の向上を図る。

・産業振興

…農業・漁業と商工業の連携による６次産業化の取り組みや販路拡大、産業展示・PR などによる情報発信を通じて、地域産業の持続的発展を目指す。

③防災機能の向上

・広域的な防災拠点

…国道１号は第１次緊急輸送道路及び道路啓開計画のルートに指定されており、道の駅は大規模災害時の避難や復旧・復興の拠点としての役割を担う。

・防災道の駅

…防災道の駅は大規模災害時に自衛隊等の救援活動の拠点、緊急物資等の基地機能、復旧・復興活動の拠点などの役割を担うものであり、指定に向けた検討を進める。

(2) 整備の方向性

【前提とする考え方】

①登録要件から：快適な休憩環境、観光資源等の発信、地域産業振興への寄与、防災機能
②事例調査から：多様な利用者、高アクセス性、官民連携
③本市特有の状況から：バイクのまち、公園との連携など

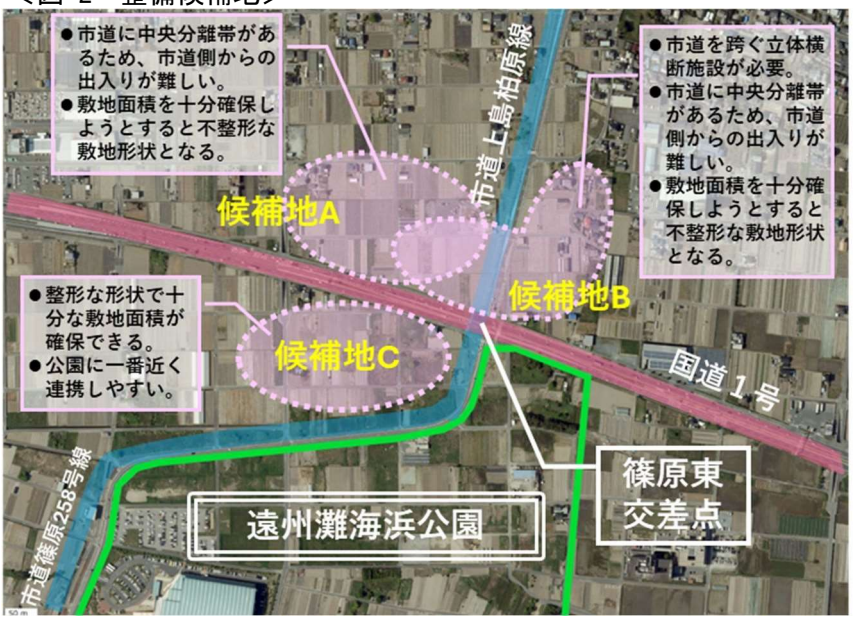
【基本方針】

・安全で快適な道路環境の提供
・浜松の魅力の発信
・交流の場の提供
・圏域住民の居場所の提供
・民間活力の導入による持続可能な施設運営

(3) 計画地

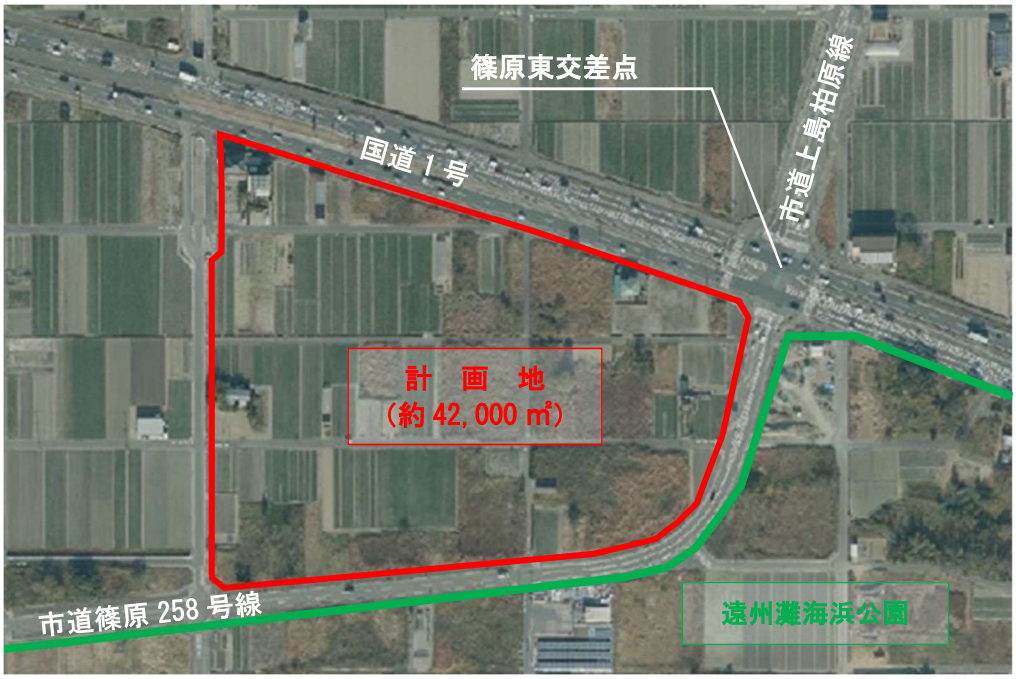
・国道１号篠原東交差点付近を中心とする一帯の中で、同交差点周囲の３か所を候補地 A・B・C として検討を行った。（図-2）

＜図-2　整備候補地＞



・アクセス性、公園との連携、敷地面積の確保、計画の自由度などの観点による評価と、民間事業者からの意見を踏まえ、同交差点南西部の候補地 C を計画地とする。(図-3)

＜図-3　計画地（候補地 C）＞



(4) アクセス

・道の駅へのアクセスの利便性と、周辺道路の安全性の観点から検討を進める。
・主なアクセス経路は国道 1 号、市道上島柏原線を想定しており、特に国道 1 号の通行に渋滞などの支障がでないよう、道路管理者と十分調整し、必要な対策を講じる。
・篠原東交差点の負荷が過大になることが想定される場合には、道路管理者と調整のうえ、周辺道路も含めた検討を行う。

(5) 施設規模、導入機能

・敷地面積は 42,000 ㎡程度、建築物の延べ面積は 5,000 ㎡程度とする。(表-1)
・利用者用駐車台数は、四輪車 400 台程度（小型車 330 台程度（身障者専用、思いやり、EV 充電用を含む)、大型車（大型特殊を含む）70 台程度)、自動二輪車 80 台程度とする。

＜表-1　施設規模＞

	敷地（㎡）	建築物（㎡）
A 登録要件	19,480	1,610
B 基本機能	4,150	3,600
C 付加機能	適宜	適宜
その他		
合計	42,000	5,210＋適宜

・導入機能は A 登録要件、B 基本機能、C 付加機能の 3 つに大別する。
・A 登録要件は道の駅の登録に必須の機能、B 基本機能は近年の道の駅に一般的に設置されている機能、C 付加機能は地域の特徴づけとして設ける機能であり、A 登録要件と B 基本機能は必要不可欠な施設として整備を前提とする。C 付加機能については、基本方針に基づく事業者からの提案により整備を検討する。

＜表-2　（参考）近隣の道の駅の概要＞

		（仮）浜松	とよはし	潮見坂	掛川
沿線道路		国道 1 号 （浜松 BP）	国道 23 号	国道 1 号 （潮見 BP）	国道 1 号 （掛川 BP）
沿線交通量（24 時間上下合計）		34,350 台	32,133 台	31,051 台	29,780 台
駐車台数	四輪計	400 台程度	258 台	150 台	307 台
	自動二輪車	80 台程度	24 台程度	4 台	68 台
敷地面積		約 42,000 ㎡	約 37,800 ㎡	約 16,000 ㎡	約 49,700 ㎡
建築物の延べ面積		約 5,000 ㎡	3,000＋α ㎡※1	506＋α ㎡※1	1,251＋α ㎡※1
年間来場者数（R4 年度）		－	225 万人	71 万人	168 万人

※1：国の管理部分は非公開

＜表-3　導入機能のイメージ＞

A 登録要件

①駐車場　（24 時間利用可）

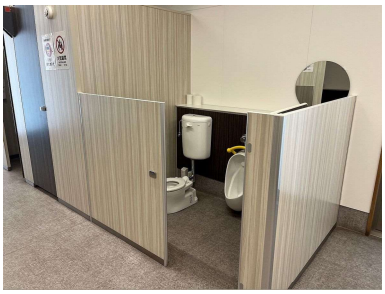
・道路からの安全な出入り
・車種に応じた適正な区画割
・自動二輪車駐車場は屋根付で前向きに駐車し、前向きに出られる構造
・空き区画の表示


（道の駅常陸大宮　出典：HP）


（道の駅ふくしま）

②トイレ　（24 時間利用可）

・誰もが安全・円滑に利用できる施設配置、レイアウト
・子育て世帯が安心して利用できるおむつ替えシートや幼児用便器などの設置
・バイクユーザーが利用しやすいゆとりあるレイアウト


（道の駅ふくしま）


（道の駅なないろ・ななえ　出典：HP）

③休憩施設、ベビーケアルーム　（24 時間利用可）

・十分な広さと快適性を備えた設備
・子育て世帯が安心して利用できる授乳室
・バイクユーザーが利用しやすい手荷物用ロッカーの設置


（IKEA 前橋　出典：コンビウィズ HP）

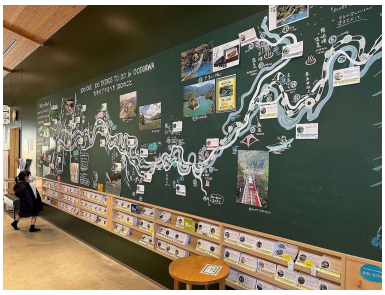

（道の駅みそぎの郷きこない　出典：HP）

④情報発信施設　（24 時間利用可）

・交通状況や渋滞、規制、気象など、交通安全に必要な道路関連情報の提供
・周辺の観光地や飲食店、宿泊施設の案内などを通じた地域の魅力発信と周遊促進



（道の駅米沢）


（KADODE OOIGAWA）

⑤防災施設

・大規模災害時の災害対応に不可欠な発電機、貯水槽、防災トイレなどの整備と関連資機材の保管
・食料・医薬品などの緊急物資の備蓄

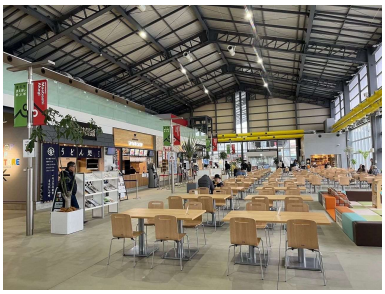

（道の駅 KOKO くろべ）


（道の駅パレットピアおおの）

B 基本機能

①飲食施設

・地場の食材を活かし、季節の食材を味わえるメニューの提供
・フードコートを中心にテイクアウトなどの店舗スタイルや、テーブル席、小上がり席など様々な利用者層を想定した飲食空間


（道の駅まえばし赤城）


（道の駅うずしお　出典：HP）

②農水産物等直売所

・地場の新鮮な農水産物を中心とした幅広い品揃えによる地域の魅力発信
・地域住民の日常の食材の提供
・生産者の出品意欲をかき立てる出品スキームの構築


（道の駅とよはし　出典：HP）


（道の駅あらい　出典：HP）

③特産品販売所

・商工連携による地場産品を活かした加工品の開発、販売など
・県西部や浜名湖周辺の特産品の広域的な提供
・生産者の出品意欲をかき立てる出品スキームの構築


（道の駅まえばし赤城）


（道の駅もてぎ　出典：HP）

④屋根付イベント広場

・普段は雨避け、日除けとなり、快適に休憩・交流できるにぎわい創出空間
・イベント時には、農水産物等直売所や飲食施設、広場などと連携
・使いやすく稼働率の高い構造・設え


（道の駅なんぶ）


（道の駅まえばし赤城　出典：HP）

⑤キッズスペース

・天候や季節に左右されず子供が安全に遊ぶことができる屋内スペース
・飲食施設への併設や、視認性が高く遠くからでも子どもの状況を把握できる安心環境


（道の駅 KOKO くろべ）


（道の駅ふくしま）

⑥多目的室

・会議やワークショップ、地域住民の交流イベント、団体客の食事場所など多目的に利用
・コンロやシンクなど調理機能を併設し、地場の食材を使用した料理教室など、体験型プログラムの開催


（道の駅とよはし　出典：HP）


（道の駅マチテラス日進　出典：HP）

⑦ショールーム

・地元企業とのタイアップにより、バイク、楽器など、浜松が誇るものづくり産業などの魅力を広く発信
・定期的に展示等の入れ替えが可能で、様々な PR の場として利用できる汎用性の高い空間


（JR 浜松駅）


（JR 浜松駅　出典：ヤマハ HP）

C 付加機能

※建築物に係るものは市街化調整区域の開発許可制度の運用基準に適合するものに限る

①屋外施設（他の道の駅の事例）

遊具広場、ドッグラン、デイキャンプ場、RV パークなど

②屋内施設（他の道の駅の事例）

コンビニ、サイクルステーション、温浴施設、食品加工体験施設など

その他
①エントランス広場、芝生広場など ・エントランス広場はモニュメントの設置により道の駅のシンボル的な空間を創出 ・イベント時のキッチンカーの設置や利用者の休憩など、広場やその他施設との一体的利用に配慮



（道の駅くるくるなると　出典：HP）



（道の駅パレットピアおおの）

(6)施設イメージ

＜図-4　配置案＞



※イメージ図であり、詳細は今後検討する。

＜図-5　外観イメージ図（鳥瞰図）＞



＜図-6　内観イメージ図（情報発信施設、休憩施設、ショールーム）＞



(7) 概算事業費

・全体の概算事業費（設計・調査から工事まで）は約 41 億円。

・国の補助金や交付金の活用を検討する。

【想定される交付金】社会資本整備総合交付金（道路事業）、地域未来交付金など

(8) 整備方法

・道の駅の整備方法には、道路管理者（国道 1 号）と市で整備する「一体型」と、市町村で全て整備する「単独型」の 2 種類がある。

・整備方法は、今後関係者と協議を行う。

(9)事業手法

・官民連携手法導入可能性調査の結果を踏まえ、事業手法はDBO方式、PFI方式（BTO）などの一括発注方式、事業期間は運営期間15年程度を最有力として詳細の検討を行う。

・持続可能な施設運営ができるよう運営を見据えた設計を行う。

＜表-4　（参考）近年における道の駅の事業手法＞

	事業手法	概要、事例
大	従来型（直営）	市が自ら資金を調達し、設計、工事について、業務ごとに仕様を定めて民間事業者へ個別に発注を行う方式。運営は市の直営。
		【事例】潮見坂（湖西市）
	従来型（指定管理等）	市が自ら資金を調達し、設計、工事、運営について、業務ごとに仕様を定めて民間事業者へ個別に発注を行う方式。
		【事例】掛川（掛川市）、とよはし（豊橋市）、KOKOくろべ（黒部市）
公共関与	EOI方式	主に従来型（指定管理等）やDB（設計・工事一括発注）方式において、設計に先立ち、運営事業予定者を選定する方式。
		【事例】常総（常総市）
	DBO方式	市が自ら資金調達し、設計・工事・運営を民間事業者へ一括で発注する方式。設計費、工事費は完了時、運営費は年度ごとに支払う。
		【事例】湘南ちがさき（茅ヶ崎市）、（仮称）姫路（姫路市）
小	PFI方式	民間事業者が資金調達し、設計・工事・運営を自ら一括で行う方式。市は民間事業者へ、事業期間内に事業費を延べ払いする。
		【事例】伊豆ゲートウェイ函南（函南町）、まえばし赤城（前橋市）

(10)想定事業スケジュール

・想定される最短の事業スケジュールは以下の通り。

・法的手続きや用地交渉・買収の進捗・状況、関係者との調整により見直す場合がある。

年度	R6	R7	R8	N	N+1	N+2	N+3	N+4	N+5
基本計画	→	→							
関係者協議			→	→					
事業者選定			･･･	→	→				
調査・設計					→	→			
工事							→	→	
管理運営									→
法的手続き			･･･	･･･	･･･	→	→		
用地交渉・買収			･･･	･･･	･･･	→	→		

開業